

平成 28 年度 研究成果報告書

Research Achievement Report FY2016

講座名・職名 Course Title・Job Title	ヨーロッパ・アメリカ I 講座・教授
氏名 Name	渡邊 克昭
専門分野 Academic Field	アメリカ文学・文化

主たる研究テーマ Principal Research Subject	アメリカ文学におけるヒューマン・エンハンスメントの進化と「幸福の追求」の未来学、アメリカ的想像力と〈死〉のアポリア
<p>本研究は、グローバル化した日常において加速度的に浸透するヒューマン・エンハンスメントへのヴィジョンが、多様な領域を巻き込みつつ、いかに交錯した情動を発動するか、「幸福の追求」の未来学との関係において、そのダイナミズムを丁寧に解きほぐすことを目標としてきた。本年度は、昨年度の共時的観点を踏まえ、通時的観点から本テーマのヴィジョンを多様なメディア表象の分析を通じて抽出するとともに、生命のデザインに特に焦点を絞って研究を進めた。昨年 5 月に上梓されたドン・デリーロの新作、Zero K にも注目し、人体冷凍保存術と不死への眼差しが複雑に織りなす多様な問題系を学際的に考察した。</p> <p>具体的な研究成果としては、日本アメリカ文学会東京支部シンポジウム「現代アメリカ小説における「保守」の諸相」（2016年12月10日、慶應義塾大学）において、講師として「生命の保守 / 保守の生命—デリーロの新作における永遠のゼロ」と題する報告を行い、研究成果の一端を発表した。本発表では、従来の「保守」をめぐる議論において等閑視されてきた「生命の保守」というバイオポリティカルな視座を提示するとともに、科学技術が進歩を遂げた未来に蘇るべく人体冷凍保存術に魅了される大富豪と息子の関係に着目し、本来的な意味での保守が二十一世紀にどのようなかたちで命脈を保ち得るのか、「永遠のゼロ」としての生命の保持が炙り出す逆説をデリーロの晩年のスタイルに探った。</p> <p>また、アジア系アメリカ文学研究会第 24 回フォーラム（2016年9月25日、神戸大学）においては、拙著『楽園に死す—アメリカ的想像力と〈死〉のアポリア』（大阪大学出版会、2016年）のなかで提示したデリーロ文学の見取り図をさらに拡充すべく、「ドン・デリーロにおける〈死〉のデザイン—オリエンタルな意匠をめぐって」と題する特別講演を行った。本講演では、デリーロが描き続けてきた死のデザインには、アメリカ的想像力が畏怖する〈死〉の恐怖を相対化し、そこに重ね書きするかのようにオリエンタルな眼差しが要所に埋め込まれていることを指摘した。そのうえで、それらはオリエンタリズムを助長したり、東洋礼賛の本質主義的なカタルシス“catharsis”をもたらしたりするのではなく、読者をさらなる思考の地平へと誘う触媒“catalyst”として機能していると結論付けた。講演内容は、同タイトルの論文として学会誌『AALA Journal』第 22 号（アジア系アメリカ文学研究会、2016年、pp. 29-55.）に掲載された。以上に加えて、『アメリカ文学研究』第 53 号（日本アメリカ文学会、2016年）において、下河辺美知子著『グローバリゼーションと惑星的想像力—恐怖と癒しの修辞学』（みすず書房、2015年）についての書評を執筆し、本研究の射程をグローバリズムに関する問題系との関わりにおいて再考した。</p>	